

## 《本号の表紙絵》

關以雄 編纂 『講話材料 衛生史譚』

(大正9年(1920)刊, 筆者蔵, A5判, 323頁)

『講話材料 衛生史譚』は、大正9年(1920)に關以雄によって著述・刊行された通俗的な医学史話集である。著者の關以雄は、明治末期から大正期にかけて多方面で活躍した著述家で、その詳細な履歴事項や修学歴はなお判然としていない点も多い。明治期から大正期にかけて、医学関係、学校衛生関係で多くの著述を残している。『衛生教育論』(1899)、『学校衛生及学校医』(1903)、『学校衛生講話材料』(1915)、『臨床医典』(1924)、『臨床指鍼』(1927)などの著作がある。明治期から昭和期にかけての最大の衛生啓蒙団体である「大日本私立衛生会」幹事などを務めた。『講話材料 衛生史譚』の内容は、日常生活の医学史的(相当部分が生活史に及ぶ)事項に関する著者独自の読解や解説をわかりやすく扱ったものである。内容的には信憑性に問題もある点が多いが、通俗的な医学史的読み物として興味深い。

(瀧澤 利行)